



DX戦略 2027





経営理念

トップメッセージ

デジタル技術の影響

経営ビジョン

DX戦略

組織体制と人材育成

DX実行計画（環境整備）

DX推進指標（KPI）

社 是 革新と挑戦

人にして遠き慮り無ければ、必ず近き憂い有り

経営理念

人間力を引き出し、磨き高めて発揮する

コミュニケーション 全員参加

収支日計

弊社は、7年前から静岡県外にトラックの営業所と倉庫・物流センター機能を併設する形で千葉県・神奈川県・愛知県にエリアを拡げ、更に2025年10月には兵庫県西宮市に、また2027年2月には群馬県高崎市に新拠点を作り、弊社独自の物流ネットワークの構築(MELリレー輸配送便)に向けて進んでおります。

また、同時に専門性を追求し、メディカル・ケミカル分野への参入も進めております。

そして、物流業界も2024年問題の対応が急がれる中、弊社は「革新と挑戦」のスローガンを掲げ、更なる変革を推進する決意です。

我々は、全社を挙げてアナログからデジタル化に取り組み、「属人化」から「集合知」への変化に向けて、ビジネスモデルを変革するDX戦略を推進し、従来のビジネスの枠組みを超え、革新的なサービスを提供し、市場での競争力を強化して参ります。

具体的には、物流プロセスのデジタル化やリアルタイムのデータ収集・分析を活用し、効率的なルートプランニングや適正な在庫管理を実現することで、お客様に安全で迅速な「持続可能な物流」を提供して参ります。

また、人工知能(AI)や省人化技術の導入により、作業効率と品質を向上させると同時に、労働力不足や労働環境改善といった課題にも柔軟かつ効果的に対処し、更にデジタルプラットフォームや顧客ポータル構築を通じて、お客様とのコミュニケーションを強化し、物流課題の解決を実現して参ります。

私たちは、DX戦略の推進によって、社員一人ひとりの力を引き出し、組織全体で革新的なアプローチを促進して参ります。

弊社の経営理念『人間力を引き出し、磨き高めて発揮する』を体現し、社員の自己実現と幸福の実現を両立し、また、お客様や関係者の皆様の幸福の追求を実行して参ります。

私たちは、安全・安心・法令遵守を基盤とし、社員満足を高め、日本経済の発展に貢献することを目指して邁進して参ります。

2024.4.18 代表取締役 橋口智規

- 近年のデジタル化の流れは物流業界においても急速に進行しつつあり、今後弊社を取り巻く競争環境に対し機会と脅威の両面から影響を及ぼすと考えられます。
- デジタル技術の進展は弊社のような中堅運送会社にとって大きな機会となり得ますが、その機会を最大限活用するためには適切な戦略と投資が必要となります。
- デジタル化の流れに適応し、競争力を維持・向上させるためには、全社挙げてのデジタル化への取り組みが不可欠です。

機会

- 新たなビジネスモデルの創出
- 新規市場への参入
- 提供サービスの多様化と差別化
- 業務効率化によるコスト削減
- 顧客エクスペリエンスの向上

脅威

- 競争力の低下
- 市場シェアの縮小
- 価格競争の激化
- 顧客の流出
- 新たな規制や業界標準の変化

- 独自物流ネットワークの構築と、徹底した高付加価値分野へのシフトにより高品質な物流サービスを提供します。
- 組織と業務の両面において企業文化の変革に取り組み企業価値を高めます。
- これにより、お客様の課題解決を図り物流戦略の推進に貢献して参ります。

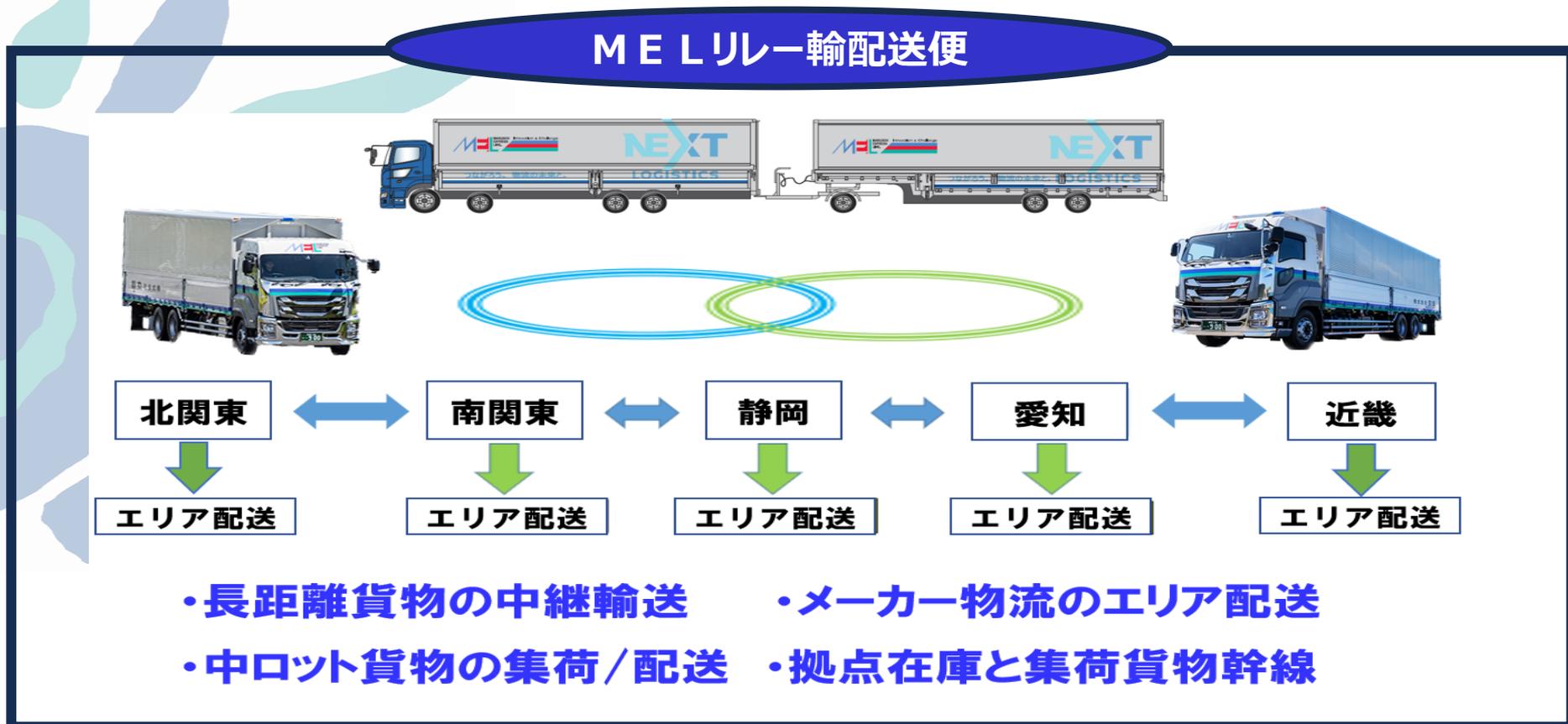
独自物流ネットワーク構築

高付加価値化シフト

変革による企業価値向上

顧客物流戦略
への貢献

- 多品種少ロット化と物流危機を解決する、幹線輸送（長距離）と各エリアの小口配送（短距離）を組み合わせた独自の物流ネットワーク（MELリレー輸配送便）でお客様の物流を支える戦略を実現します。



- 独自の物流ネットワークをベースに、物流における高い専門性を要求するお客様に貢献することを目標に、メディカル・ケミカル、ファクトリー分野に注力します。
- そして、付加価値の高いサービスを提供し、同分野のお客様の物流戦略に貢献します。

メディカルへの関わり

神奈川/静岡/愛知の
病院・卸配送と医薬品、
医療機器等の院内補給



ケミカルへの関わり

危険物の保管、輸送・
配送を手掛ける



ファクトリーへの関わり

工場内の作業も請負い
海外も視野に入れた生
産物流まで手掛ける



専門性を追求し、付加価値の高い業務だけに特化

- DX戦略の推進によって、社員一人ひとりの力を引き出し、組織全体で革新的なアプローチを促進します。
- 弊社の経営理念『人間力を引き出し、磨き高めて発揮する』を体現し、社員の自己実現と幸福の実現を両立し、また、お客様や関係者の皆様の幸福の追求を実行して参ります。

**新卒採用
&
育成の仕組み**

**DX活用
&
業務変革**

組織変革と業務変革で、企業価値を高める

戦略1「MELリレー輸配送便を実現する情報プラットフォームの構築」

- 効率的なエリア共同配送を実現するための情報と物流の流通基盤の構築と整備を行う
- 既存基幹系システムを再構築し事業間データを連携することで取引データの一元管理を実現する
- メディカル+ケミカルの顧客向けに最適化された受注・集荷・在庫・配送システムを構築する

戦略2「データ利活用の高度化による次世代物流サービスの提供」

- AI等の最新デジタル技術を活用して物流オペレーションの自動化・効率化・最適化を図る
- データ活用により業務ノウハウを可視化し、「属人化」から「集合知」への変革を実現する
- KGIやKPIを活用しながら、常にデータによる判断で改善活動を持続する組織カルチャーを醸成し、物流サービスの高品質化を図る

戦略3「デジタルリテラシー向上による全社情報化武装」

- BIシステムの導入により経営状況を可視化し、迅速な意思決定を行う環境を整備する
- AI等の最新デジタル技術の導入で社員のデジタルリテラシーを上げ事務作業を効率化する
- ITスキル向上に主眼を置いたリスキリングの強化により、就業規則や人事制度とも連動したデジタル人材の育成と成長を管理する仕組みを構築するとともに、全員参加型のDX推進体制を定着させる

組織体制と人材育成（基本方針）

- DX推進室を中心に、全員参加型の社内タスクフォースにより各種施策を推進していきます。
- 新卒/中途採用による人材確保に注力し、社員ITリテラシーを高めるための教育を強化します。
- これにより戦略1、2、3の推進を加速していきます。

組織体制

- DX推進室による全体統括
- 全員参加型のタスクフォース立ち上げ
- 外部専門家との連携強化



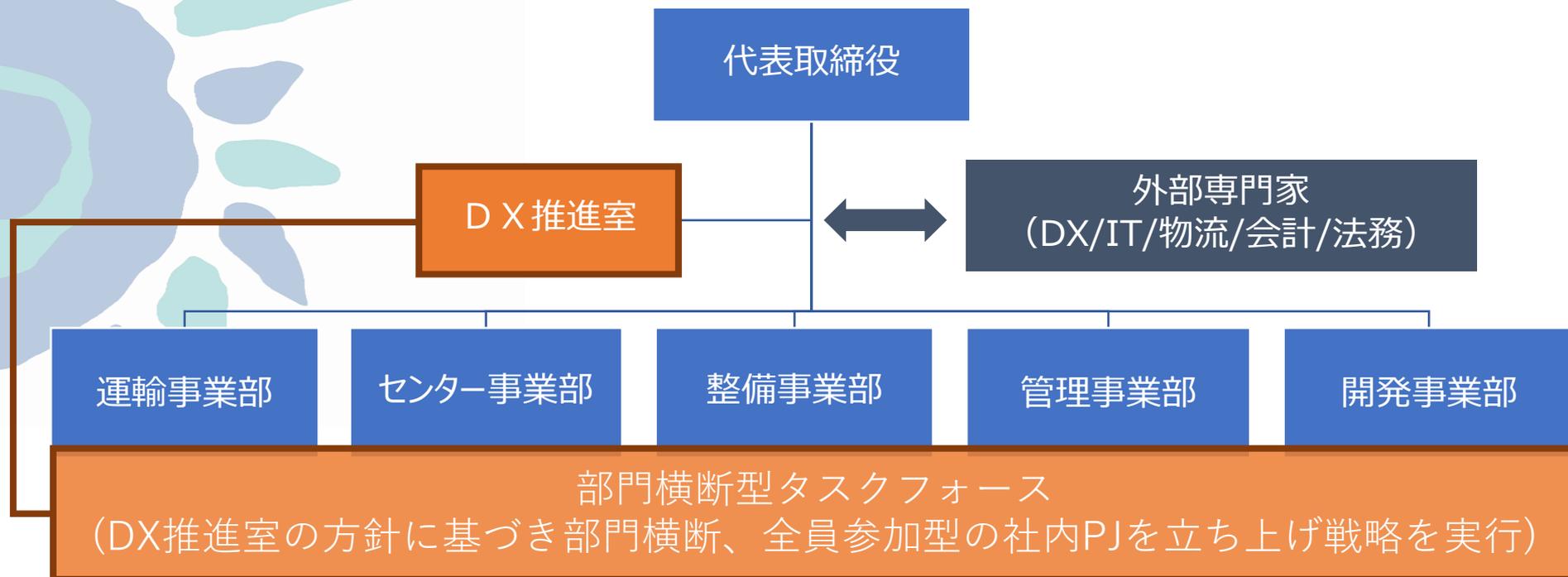
人材育成

- 新卒/中途採用活動の強化
- ITリテラシー教育の実施
- ITスキルを取り込んだ職能要件の改定



戦略1、2、3
を加速

- DX推進室（1年目はDX推進プロジェクト）を設置し、全社システム化計画立案と推進、IT技術検証/PoC、全社セキュリティ対策、デジタル人材育成プログラム等を担当します。
- DX推進室の方針に基づき、全部門を巻き込んだ全員参加型のDX推進タスクフォースを立ち上げ、戦略1、2、3を実行していきます。
- DX、IT、物流コンサルタントなどの外部専門家との連携を強化することで取り組みを加速します。



- 2024年度から2026年度にかけて、毎年売上の0.6%相当をバリューアップ投資としてDX推進に配賦し、下記テーマに取り組むことでITシステム・デジタル技術活用環境を整備して参ります。
- ラン・ザ・ビジネス予算（既存システム関連）と合わせた年間IT投資額は売上高の1%相当を計画しています。

取り組みテーマ	関連する戦略	実施時期		
		2024年	2025年	2026年
エリア共同配送プラットフォーム構築	1		●	●
基幹系システムの再構築（事業間データ連携含む）	1		●	●
BIシステムによる経営状況の可視化	3	●	●	
AI技術とローコード開発による受発注・配車業務の自動化	2		●	●
デジタル運転日報導入	2	●	●	
AI技術とローコード開発による事務作業効率化	3	●	●	
属人化業務の可視化（業務フローの見直しなど）	2	●	●	
社員向けITリテラシー教育	3	●	●	●

- 戦略実現に向けた推進指標として以下のKPIを定め、DX推進室にて随時モニタリングをしていながらPDCAサイクルを回していきます。

推進指標（KPI）	関連する戦略	内容
共同配送プラットフォームの運用開始	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 神奈川・静岡地域および近畿・北陸地域をターゲットに、「MEL!リレー輸配送便」を実現する受注配送システムを稼働させる
メディカル、ケミカル業界への提案改善件数 （弊社⇒メーカー、事業者様への提案）	1	<ul style="list-style-type: none"> ● メディカル分野：神奈川/静岡/愛知の病院向け卸配送と医薬品、医療機器等の院内補給向け輸送の提案を行う ● ケミカル分野：現在本社敷地内に建設中のHAZMAT(危険物)倉庫を活用し、危険物の保管・輸配送の提案を行う
基幹系システムの再構築 （事業間データ連携含む）	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業部門別の販売管理システムと連動する全社ベースの基幹系システムを構築し、全社でのデータドリブン経営を推進する
BIシステムによる経営状況の可視化	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 各部門の責任者がBIシステムを活用し、計画と実績の差を分析し、必要なアクションをタイムリーに実施する ● オペレーションの実施状況を営業会議等で定期的に報告しチェックする
ローコード開発・AI技術を活用した業務の自動化・効率化	2、3	<ul style="list-style-type: none"> ● 運輸部門の現場業務とバックオフィスの事務作業を中心に業務効率化の仕組みを構築する（デジタル運転日報、受発注システムなど） ● その後、倉庫・整備等基幹業務への展開を図る
ITパスポート資格所有者数	3	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル人材育成のためITパスポート資格の取得を推奨し、年間取得目標と実績の管理を行う
社員向けITリテラシー向上研修実施回数	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間事業計画の一部にITスキル開発計画を組み込む ● 社員ITリテラシーの向上を目的とした研修メニューを体系化し、計画的な研修を行う



革新と挑戦

人にして遠き慮り無ければ、必ず近き愛い有り



株式会社 **丸 総**